

## 寝たきりの方をお見舞い

町赤十字奉仕団

町赤十字奉仕団員が7月7日、70歳以上の寝たきりの方の家庭を訪問し、介護されている家族の労をねぎらい、お見舞い品を贈りました。

お年寄りの皆さんは、団員の心のこもった訪問に感謝され、なごやかなひとときを過ごされました。



お見舞い品を贈る奉仕団の皆さん

## みそぎ餅で厄払い

笠松菓子工業組合



みそぎ餅を焼く菓子工業組合の皆さん

無病息災を願って食べる「みそぎ餅」。

みそぎ餅は、毎年6月30日だけに販売される笠松町の銘菓です。今年も新町の特設会場では実演販売が行われ、笠松菓子工業組合が用意した6,500本のみそぎ餅は、お昼までには完売しました。

## 図鑑で見たトンボを発見したよ

トンボ天国親子探検隊

トンボ池を守る会主催のトンボ天国親子探検隊が7月11日、笠松トンボ天国で開催されました。

当日は45人の親子が、講師で昆虫の専門家 柴田佳章さんからトンボ天国一帯にいる動植物の説明を受けながら、貴重な自然の残るトンボ天国を探検しました。

参加した子どもたちは、マユタテアカネやハグロトンボなどを発見しては興味深く熱心に観察し、身近にある自然の中で、楽しいひとときを過ごしました。



トンボ天国で発見できるトンボの説明を聞く子どもたち



笠松競馬場にあるオグリキャップのブロンズ像

## 「笠松町」のPRも担い、駆け抜けた生涯

笠松競馬が生んだ 希代の名馬 オグリキャップ

「芦毛の怪物」と言われたオグリキャップ。競馬ファンならずとも、誰もが一度はその名を耳にしたことがあるでしょう。

そのオグリキャップが7月3日、25年の生涯を終えました。競走馬としての輝かしい功績だけでなく、人々を魅了する走りは町に活気を与え、オグリキャップの名声とともに「笠松町」の名を全国へ知らしめてくれました。

まちづくりの役を担っていたと言っても過言ではないでしょう。

笠松競馬場にあるオグリキャップのブロンズ像は、皆さんの心に残るオグリキャップのようにいつまでも色あせることなく、これからも笠松町のまちづくりを見守り続けます。